

8月28日勉強会

<DEXCS2011の説明>

① デスクトップ→DEXCS→setup.sh…端末内で実行

↓

デスクトップに DEXCS2011 が出る

② DEXCS2011 を開く

↓

ヘルプ→プロトタイプ情報→ProtoType.pdf が見ることができる

(DEXCS2011 のことが書かれている)

<実習>

DEXCS2011 を開く

① 新しいフォルダを作る (DEXCS2010 とやり方はほぼ同じ)

ファイル→解析フォルダ新規作成→どこかに保存(デスクトップなど)→開く

これで、解析フォルダを作ることができる

② メッシュ 1

blockMesh …実行

autopatch…実行

createpatch…実行→mesh1 / 2 / polymesh を開く→OK

③ メッシュ 2

surfaceFeatureExtract…選択実行→dexcs.stl を選択→開く→OK

計算実行…実行 (パソコンによって少し時間がかかる)

メッシュ確認…実行→Paraview3.10.1 表示される

caseType : Decomposed Case wireframe にするとメッシュ確認できる

メッシュ確定…実行→mesh2 / 3 / polyMesh を開く→OK

④ 計算実行

初期流れ場解析(potentialFoam)→実行

計算実行(simpleFoam)→実行

⑤ 結果処理

paraFoam…実行(caseType : Decomposed Case)

recomstruct→実行
foamlog→実行
sample→実行
gnuplot→実行→グラフ表示される

※ヘルプからランチャの使い方を見ることができる
ヘルプ→ランチャの使い方(内容は旧版)のまま

<DEXCS SWAK(十徳ナイフ)デモンストレーション>

case→test /exe を開く

- ・ ケース初期化→実行 すると、初期状態になる
- ・ 時刻歴データの図化→実行 時間フォルダ選択→force / 0 を開く
グラフ作成→グラフが作成される
- ・ patch 名の一括変更
- ・ 初期条件の一括参照、変更
- ・ ソルバーの実行
- ・ ソルバーの停止
- ・ system データの一括参照
- ・ ソースコード検索…キーワードからディクショナリを検索することができる
ランチャーの使って行うことを、SWAK から行うことができる